

平成 29 年度 社会福祉法人椎の木福祉会 事業計画

特別養護老人ホーム 瑞光の里

特別養護老人ホーム 第二瑞光の里

特別養護老人ホーム 瑞光の里 緑ヶ丘

半田養護老人ホーム Link

はじめに

○平成 28 年度の概括

1. 平成 28 年 2 月に開所した特別養護老人ホーム瑞光の里緑ヶ丘は、7 月に特養床が満床になるも、ショート 1 ユニット開設は次年度に持ち越すこととなった。
2. 半田養護老人ホーム Link は当初予定の利用者を確保することができた。
3. 社会福祉法人制度改革に向けた取り組みを進め、定款変更を行った。また社会貢献事業の具体策を検討してきた。総合的な相談支援機能の充実を目指す「瑞光プラットフォーム」会議を設置し社会貢献事業の推進準備を進めてきた。

○平成 29 年度の動向

平成 30 年 4 月予定の介護保険制度改定の議論が進むが、6 年に一度の医療・介護の統合的な改定が行われる予定である。改定情報の収集と対策の検討が課題である。

平成 29 年 4 月より介護報酬改定が行われ、介護職員処遇改善を進めるための介護職員処遇改善加算項目の新設が行われる。新設加算の取得が課題となる。

社会福祉法人制度改革に沿った施策の実行が求められる。特に社会福祉充実計画（社会福祉充実残額の計算を踏まえたもの）の策定や社会福祉法人としての社会貢献事業などである。

介護職員等の人材確保はますます困難性が増す状況にある。人材が集まるより魅力的な施設経営が一層重要となっている。

半田市唯一の 3 つの特養と 1 つの養護老人ホームを運営する責任を自覚し、地域社会への貢献を果たすよう一層努力する年である。

平成 29 年度の重点事業

1. 特別養護老人ホーム瑞光の里緑ヶ丘の早期完成（残るショート 1 ユニットの開設）に向けた取り組みを進める。
2. 社会福祉法人制度改革による地域貢献事業に着手する。主な事業は無償もしくは定額の施設利用（高齢者に限らない生活困窮者などを対象に）のほか瑞光プラットフォームを基礎とする相談支援事業などを進める。なお、社会福祉充実計画について当法人の社会福祉充実残額は 0 円と想定しており、計画の策定は不要となる。
3. 地域包括ケアシステムの構築を目指し地域包括支援センター、障害者相談支援センター、権利擁護センターなど関係組織との一層の連携を強化する
4. 施設サービスの一層の充実
利用者の自立と尊厳を重視したサービスの質の向上を図る。
サービスの質を支える諸条件の整備を進める。
職員の資格取得の促進支援を図る。

人員の確保・定着の一層の促進と人材の養成を進める。新たな介護職員処遇改善加算取得を図る。

5. 中野会との連携強化

地域貢献を一層進める視点から一層法人間連携を強化する。

6. その他

社会的な認知・信頼の向上のために、財務情報の開示の充実、ホームページの充実、やまももの定例発行などを継続する。

2. 施設別計画

1) 瑞光の里

- ・【本館平均人数】特養 88 人、ショート 20.5 人を目標とする。
- ・【別館平均人数】特養 39 人を目標とする。
- ・【平均介護度】本館 4.2、別館 4.2 を目標とする。
- ・介護福祉士比率の向上を図る。(現在：43 人、目標：45 人)
- ・認知症介護実践リーダーの養成を進める。(現在リーダー1 名、実践者 7 名)
- ・ユニットリーダー研修、介護福祉士実習指導者などの養成を進める。
- ・ショートステイ緊急受け入れ体制を一層強化する。(対象問わず、措置入所を含む)
- ・委員会体制の見直しを行い、サービスの質の向上を目指す。(委員会新設予定)
- ・介護保険制度改定の情報収集を行い、対策を検討する。
- ・施設老朽化に対する対応について、中長期にわたる改善計画の検討を開始する。

2) 第二瑞光の里

- ・【平均人数】特養 88 人、ショート 9.6 人を目標とする。
- ・【平均介護度】4.0 を目標とする。
- ・介護福祉士比率の向上を図る。(現在：26.7 人 目標：30 人)
- ・地域のニーズをくみ取り、地域から選ばれる介護施設を目指す。
- ・24 時間シートとケアプランを有効に活用し、個別ケアの推進を図る。
- ・実習生とボランティアの受入体制の強化を図る。
- ・各種委員会活動を活性化させ、サービスの質の向上に努める。
- ・緊急受け入れ体制の仕組みを改善し、困難ケースの受け入れ強化を図る。
- ・利用ニーズの多様化に対応し、生活の質向上に努める。
- ・職員教育の充実により、コンプライアンス意識向上に努める。

3) 瑞光の里 緑ヶ丘

- ・【平均人数】特養 96 人、ショート 15 人を目標とする。
- ・【平均介護度】4.0 を目標とする。
- ・新規加算取得を進める。
- ・介護福祉士比率の向上を図る。(現在：36 人)
- ・介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に進める。
- ・役職者教育、職員教育を実践し、サービスの質の向上に努める。
- ・組織を整え、チームワークの向上に努める。
- ・ショートステイ緊急受入体制を強化する。
- ・実習生とボランティアの受入体制を強化する。

- ・地域交流スペースのより一層の活用を進める。
- ・介護保険制度改定の情報収集を行い、対策を検討する。

4) 半田養護老人ホーム L i n k

- ・【入所人数】平均 48 人を目標とする。
- ・新規入所者の獲得を目指し各市町村、関係機関への営業活動を継続する。
- ・職員教育を強化することによりサービスの質の向上に努める。
- ・ADL 低下防止及び要介助者への体制を強化に努める。
- ・認知症を進行させないことへの取り組み（手作業等）を進める。
- ・施設内外の研修を通して職員の知識、技術向上に努める。
- ・健康に関して正しい知識を入所者へ広める。
- ・地域との関わりの仕組みを作る。

5) 在宅支援・地域連携事業

(1) デイサービス事業

- ・【平均利用者目標】 23 名／日（600 名／月）とする。
- ・新規利用者の獲得を目指し、関係事業所とのコミュニケーションに努める。
- ・障がい利用者数増加に努める。
- ・利用者様の希望に添い、日常のサービスの質の向上に努める。
- ・利用者様が楽しめる行事の充実を図る。
- ・タクティールケアを導入し緩和ケアの充実を図る。

(2) 居宅支援事業

- ・要介護プラン作成件数 月平均 125 件（H28.4～H29.1 平均 123 件／月）
- ・要支援プラン作成件数 月平均 15 件（H28.4～H29.1 平均 29 件／月）
- ・地域包括ケアへの取り組み
半田市高齢介護課・社会福祉協議会との合同会議等、連携強化
ふくし井戸端会議等、地域住民との交流・意見交換
半田市居宅介護支援事業所連絡協議会運営協力
- ・介護支援専門員の資質向上
事業所内事例検討会の継続
定期的な個別面接実施
- ・瑞光プラットホームへの対応
法人内の相談員と協力し地域の困難事例の受入
- ・特定事業所加算Ⅱ取得体制の維持・継続
介護支援専門員の年間研修計画策定・実施の確認
包括支援センターからの困難事例の受入継続
介護支援専門員実務研修実習受入体制の確保

(3) 地域連携

- ・虐待事例受入等に関するガイドラインに則り、包括支援センター等との連携強化に努めていく。
- ・地域住民との交流を深めていく為、地元小学校や中学校との連携を継続していく。
- ・瑞光プラットフォームを構築し、地域の問題を迅速に解決するシステムを整備していく。

3. 年間行事計画・・・別紙参照

4. 研修計画・・・別紙参照